人と人との関係を大切に
頼られる存在を目指して

保健師最前線

木津川市

杉田 米子　さん

　高校２年生の頃、旧木津町へ引っ越してきた。その後、京都市内の看護学校へ通った後、戻ってくるような形で、旧木津町で働くことになった。

　仕事を始めてから３年ほどして保健センターが設立されるとそちらへ移り、平成１２年に介護保険法が施行されてからは、要介護認定などの業務にも携わりながら、現場で住民と接しながら働いてきた。そして現在では、健康推進課長補佐兼保健予防係長の役職につき、現場を少し離れ統率する立場だ。

　木津川市は平成１９年に旧木津町・旧加茂町・旧山城町が合併し誕生した。合併による地域の拡大に伴い、マンパワー不足は否めない。また９月から木津川市役所が新庁舎へ移り、保健センターと分割されたため、より一層全体の動きがつかみにくくなった。

　そんな状況のなかでも、

「人と人の関係作りが大事ですね。やっぱり住民在りきの保健師ですから。」

信念を強く持ちながら、住民一人ひとりのケアが希薄にならないように、若い保健師さん達を引っ張りながらフル活動で奮闘している。また限られた人数の中で業務をよりスムーズに行なえるよう、各支所や保健センターに分割されている保健師の集結をめざしている。

　情報があふれ、住民が保健師から離れ個人処理しようとすることが増えてきた今日だが、最終的には頼られる存在となるため、住民と関係を作った上で、何を必要としているのかを引き出し、的確な指導を行なうように心がけている。

「特定保健指導は楽しくやっています。」

と笑顔を見せる。実際に住民と接し、関係を作れることに喜びを感じているのだった。